原子力学会標準委員会 リスク専門部会
第43回レベル2PRA分科会審議

日時 2022年4月22日(金) 13:30-17:00

場所 Web会議

出席者:

委員: 委員: 村松(主査), 成宮(副主査), 濱崎(幹事), 廣内(幹事), 山越(幹事),
廣川(吉田幹事代理), 宇井, 小野田, 楠木, 小谷, 鈴江, 白石, 中村(康), 橋本,
美原, 渡邊 15名出席

(欠席) 池田, 石川, 中村(真), 原口, 松山

常時参加者: 杉田, 大沼, 友澤, 長江

(欠席) 阿部, 小城, 西村, 三浦

議事:(発言者省略)

議事に先立ち, 定足数及び配布資料の確認を行った。

議題1 前回議事録の確認

<要旨>

濱崎幹事より, 資料P10SC43-1に基づき, 前回議事録要旨(案)の概要版について説明があった。成宮副主査が欠席欄に記載されていないとのコメントがあり, コメントのとおり見直すこととなった。

議題2 人事案件

<要旨>

村松主査より, 資料P10SC43-2に基づき, 委員増員に関する提案について説明があった。背景としては, 現状の委員の構成では学識経験者の割合が少ないこと, 若返りを図る必要があることが挙げられた。新たな委員を選任していく方針は分科会で了承された。今後, 4/27までに分科会委員から候補者の推薦を受け付け, 4/28~5/12に分科会委員による投票を行うこととなった。

議題3 レベル2PRA標準(津波拡張版)標準原案に対する公衆審査の結果及び受け付けた意見への対応について

<要旨>

濱崎幹事より, 資料P10SC43-3に基づき, 公衆審査の結果と受け付けた意見への対応について説明があった。受け付けた意見は, 「現状, 大規模放出の定義として, CsIの環境への放射量が概ね炉内インベントリの10%を超える場合, とあるが, NUREG/CR-6595には

2.5%～3%を超える場合も大規模放出と定義することが可能であるとの記載があり、本実施基準においても、そのように見直した方がよい。」というものである。これに対して、対応案として大規模放出の包絡的な値として「約 2.5%～3%以上」を記載するとともに、NUREG/CR-6595 を参考文献に追加することが説明された。

これに対して以下の議論があった。

- 対応案では、EPRI 文献の紹介のところに「約 2.5%～3%以上」と記載している。別の項目として NUREG/CR-6595 を立てて、そこで「約 2.5%～3%以上」の文言を記載すること。
- 本論から外れるが、公衆審査版で誤記が見つまっている。今後の転載許諾、誤記チェックの中で、修正していくこと。
- 意見者への連絡は、リスク専門部会、標準委員会での説明の後、事務局から行われ、標準委員会 HP に掲載される。

議題 4 レベル 2PRA 標準の停止状態拡張のための文献調査の進め方について

<要旨>

濱崎幹事より、資料 P10SC43-4 に基づき、停止状態拡張のための文献調査の進め方について説明があった。調査対象は 11 文献あり、そのうち優先度が高いのは 7 文献である。文献はサーバーに保管しており、調査結果の書式は 3 種類準備している。半年後を目途に調査完了を予定している。

これに対して以下の議論があった。

- ある程度調査が進んだら、まとめ表に記載していく。文献調査は分科会委員全員で行うが、整理は S 班で行う。
- 停止時+外部事象は調査対象外。内的停止時を調査対象とする。
- 停止時レベル 1PRA 標準では、出力時レベル 1PRA 標準を参照している箇所があるが、調査対象は、停止時特有の部分とする。
- 英文の文献の調査結果は書式③に整理する。

議題 5 レベル 2PRA 標準（地震拡張版）の講習会実施について

<要旨>

濱崎幹事より、P10SC43-5 に基づき、レベル 2PRA 標準の地震拡張版の講習会実施について説明があった。午前に概要、午後に個別の内容について講義を行うスケジュールとする。ハザードやフラジリティの話があるため、美原委員にも臨席いただく。資料配布は講義の前に行う。

これに対して以下の議論があった。

- 所属組織によっては社外発表同いが必要なところもあることから、余裕をもって、5/E を目途に確認会を行う。

- 講義資料 PPT の図表が転載している場合は許諾を受ける必要がある。必要に応じて、配付用と投影用を分けて作成する。

議題 6 レベル 2PRA 標準（地震拡張版）の ASRAM 2022 への投稿の準備について

<要旨>

濱崎幹事より、P10SC43-6 に基づき、地震拡張版が制定されたタイミングで国際学会（ASRAM2022）への投稿を行う旨、説明があった。ASRAM2022 は 2022/11/30～12/2 に韓国 Daejeon で開催予定であり、2022/10 がアブストラクトとフルペーパーの提出期限になると推測される。

これに対して以下の議論があった。

- ASRAM2022 の flyer 案によるとアブストラクト締め切りが 5 月 15 日となっているが現時点で HP が未公開であることから、変更される可能性大。
- 余震の影響について解説に記載があるため、発表内容に含めるべきである。

議題 7 JCNRM L2-WG の参加報告

<要旨>

濱崎幹事より、P10SC43-7 に基づき、JCNRM（原子力リスクマネジメント合同委員会）の L2WG に参加した旨、説明があった。レベル 2PRA 標準に対するコメントのうち 85% 程度が解決済みであり、今後、修正版の再投票が 2022/8 に、発行は 2023/2 頃を予定している。

これに対して以下の議論があった。

- CC (Capability Capacity) -1, -2, -3 のうち、CC-3 が削除されている理由として、プラント固有のデータを使用することが困難ということが挙げられる。

議題 8 今後の進め方

<要旨>

濱崎幹事より、P10SC43-8 に基づき、今後のスケジュールについて説明があった。地震拡張レベル 2PRA 標準については、2022/6/29 に講習会の開催、ASRAM2022 の投稿準備を行う。津波拡張レベル 2PRA 標準については、第 60 回リスク専門部会（5/19）、第 88 回標準委員会（6/1）にて、公衆審査意見への対応と標準への反映を説明する。また、レベル 2PRA 標準の停止状態への拡張と階層化については、文献調査に着手する。

次回分科会は、2022/7/12（火）13:30～17:00 に開催する。

以上